知恵の樹
No. 224 2018.5.22
町田の図書館活動をすすめる会
https://machida-library.jimdo.com
代表：手嶋　孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

グループワークショップ「鶴川地域図書館のこれから」に参加して

— 5 月 13 日(日)午後2時～4時 鶴川市民センター第 2 会議室 —

鈴木 真佐世

町田市公共施設再編計画の中で 2018 年度中に短期計画を策定すべき図書館について、地域の人たちの意見やアイデアを聞くために、図書館が主催して標記のワークショップが開催されました（他に 5 月 25 日の夜に和光大学ポプリホール鶴川で開催）。広報が十分とは言えなかったので、定員 24 名のうち何人が参加されるか心配しましたが、私を含めて 18 名の参加がありました。

図書館の司会で、最初に外部コンサルタントが町田市の現状と今後、鶴川地域の図書館の状況についてスライドを使って、参加者に説明。その後、3つのグループに分かれ、市の職員の方が1人ファシリテーターとして入って、ワークショップが始まりました。

まず、鶴川（団地）図書館と駅前図書館それぞれの利用頻度、利用の仕方などを書き込んだポストイットを大きな紙に貼り、それぞれの利用状況もわかった後、鶴川図書館がもしも UR 都市機構の建て替えと共に建て替えられることになったら、どのような図書館であってほしいかということを話し合いました。

現在の利用の仕方

鶴川図書館の特徴的なものとしては、郵便局や買い物のついでに寄る、駐車場があるので来る、子どもだけでも安全なので来る、広場で幼児を遊ばせながら、来ると知り合いに会えるので交流ができる、散歩がてらなど、そして、ネットで検索ができないからと職員の方に探して頂くということも多いようで、地元に密着した図書館ならではという感じでした。**駅前図書館の利用**では、ポプリホールのイベントや講座、会議などのついでに寄る等、複合施設ならではの利用が目立ちました。

鶴川図書館の今後に向けての提案

・今の図書館は交流スペースがないので、交流とおはなし会のできるスペース（時間によって使い分ける）をという意見の一方、スペースに限りがあるのなら、交流スペースとしては商店街の中に今あるカフェやお年寄りのための「あんしん相談室」などを活用し、静かに読書をできるスペースを設けてほしいという意見も。

・各グループに共通していたのが、大人は電子書籍やネット環境での情報でも済む部分があるが、子どもには紙ベースの本が周りにあることがとても大事なので、児童書は充実してほしい、おはなし会は続けてほしいなど子どもの読書環境の充実のことでした。

・今も子どもやお年寄りを見守る機能を果たしている、小さいがための利点でもあり、大事にしてほしい。

・これからも存続させるために地域住民と図書館が協力するには、しっかりと方針を立ててよく相談し、役割を分担することも大事。

・商店街全体が持つ複合機能を十分生かす。

・高齢者が出かけにくくなることの解決案として、借りた図書と買い物を一緒に宅配するという案も出ましたが、団地商店街と鶴川第二高齢者支援センターのコラボで送迎バスを出して高齢者を商店街と図書館に連れてくるという試みがはじまるとの報告があり、地域協働の良い実例となりそうです（スペースの関係で、駅前図書館についての提案は省略）。図書館は、出された提案・意見をきちんと受け止めて、今後の図書館のあり方を選んでほしいと思います。　（会員）

「第７回　まちだ図書館まつり～本はともだち～」　報 告

2018 年３月 22 日(木)～３月 25 日(日)　　ところ：町田市立図書館全館＆文学館

主催：図書館まつり実行委員会
共催：町田市立図書館
事務局：中央図書館児童

久保 礼子

昨年からスタートした中央図書館2F エントランスの飾りつけ。今年も市民グループが担当しました。
テーマは「誕生と成長」

市民協働の図書館事業として毎年開催され回を重ねてきた図書館まつりが、今年、第7回を迎え、4 月 26 日の反省会をもって幕を閉じました。4日間の参加延べ人数は 1,597 人(内、子ども 660 人)でした。

回を重ねる中で“より多くの市民と、より幅広い内容で”と、祭りの名称を当初の「まちだとしょかん子どもまつり」から「まちだ図書館まつり」と変えた経緯があり、第1回からコアスタッフとして関わってきた私は夢を膨らませて臨んだのですが･･･。そして、例年どおり、大勢の方におまつりを楽しんでいただけたのですが･･･、今回、「実行委員会形式」、「市民協働」の内実は大きく反省せざるを得ないものであったと感じています。問題点を次回の課題として、まつり実行委員の皆さんにも実りの多い楽しい「第8回まちだ図書館まつり」が実現されることを願って、以下、簡単に今回の反省点を報告します。

第7回の図書館まつりは、例年どおり図書館が登録団体に呼び掛けて説明会からスタートしました。が、8月の第1回打合せ会の折には役員の決定ができず、コアスタッフの決定のみ。後日、事務局が独自に動いて委員長を依頼、決定。参加団体はその報告をメールで受けるという運びになり、副委員長、広報担当など他の役員の選出はなく、これまでにない実行委員会体制となりました。

中央図書館の祭りフィナーレは実行委員会企画「ビブリオバトル」。なんと、バトラー6名全員が中学生。
司会進行はビブリオバトル普及委員・関東地区副代表の市川さんでした。

『実行委員会形式とは』とパソコンで検索すると＜一定の公共性がある一過性のイベントや周期的な行事などについて用いられることが多い。各行為主体が企画段階から共働することによって、柔軟かつ積極的な事業運営が可能になり、行政単独では実現できない相乗効果が期待される。反面、継続性の問題や、責任主体が必ずしも明確でないといった問題点も指摘される＞と説明が出てきますが、今回、このような流れの中で、残念ながら“責任主体”が事務局に偏向という結果になってしまいました。

反省会では、多くの人が「好いおまつりなのに――」と宣伝不足を指摘しましたが、広報担当不在など実行委員会の組織がまとまらず、事務局や地域館、参加団体の皆さんと丁寧な意見交換ができなかったことが大きく起因しているように思われたことでした。「早い時期に広報掲載を」「登録団体交流会を利用してアピールを」「地域の町内会とも連携して」など、反省会で出た意見はぜひ次年度に引き継いでいただきたいものです。

「第8回まちだ図書館まつり」の説明会は6月28日に行われます。“行事ありき”ではなく、このまつりを創り上げる過程こそが“市民協働の素敵な事例”と注目されるほどに楽しくできたらいいなと願っています。

（第7回図書館まつりコアスタッフ　・会員）

地域館での動き　―さるびあ図書館おはなしボランティア　誕生！　　増山　正子

中央館1館だけから、子どもまつりとして始まったこのまつりも、市立図書館全館、全市民を巻き込んでのまつりと徐々に進展して、7回目にして各地域館が地域館で活動しているボランティア(以下ボラ)と共に独自にまつりの企画を立てて各館を盛り上げようということになった。その経緯は、当会報№219 巻頭言で既に報告をした通りだ。しかし、町田市立図書館では、どの館も団体ではなく個人としてボラを受け入れているため、ボラ同士の横の繋がりは全くといってよいほどなく、“地域館で活動しているボラと共に”は、まず地域館でのボラを組織しなければ、出来ないことだった。これは、もう、図書館にボラを受け入れてもらった30年余前から、個人ではなく各図書館を支える団体ボラをと、口が酸っぱくなるほど懇談会や協議会等でも言ってきたことだが、一向に改善されなかったことでもある。

おはなし室のカーテンを全開して、オープンなおはなし会

毎年、図書館で主催するおはなしボラ研修の受講生のグループが、年度ごとに小グループ化して、それぞれ独自の活動を行っているようだが、図書館では、グループに関係なく希望館に個人登録をして「おはなし会」でのボラをしているのが現状なのである。

私自身、さるびあ図書館のボラ登録をして、年に2、3回当番表で組まれた人とおはなし会でご一緒するが、知らない人も多く、果たしてグループ化できるかどうか全くの未知数であった。

しかし、これからの地域の図書館を考えたとき、あらゆる可能性を秘めた事業・活動を展開していくには、市民との協働が大きくものをいう事は確かで、全く横のつながりのない個人を相手に協働していくのは不可能だとおもわれる。

町一小児童とのコラボ「おすすめ本の栞」

第7回のまつりを“地域館で活動しているボラと共に盛りあげよう”と、6回の反省会で豪語したこともあり、まずは、自分がボラ登録しているさるびあ図書館でのボラ組織を作らねばと、昨年春、さるびあ図書館ボラの懇談会に参加し、図書館でまつりをする意義や、ボラ同士の横のつながりが大事だということ、図書館まつりで一緒に楽しいことをやろう、と熱く呼びかけてみた。

すると、懇談会参加者の殆どの人が横のつながりが欲しいと思っていたと喜んで賛成してくれた。“さるびあ”で長年ボラをしている人が代表を引き受けてくれ、連絡網を作って下さり、手を挙げた人たちだけの緩やかなボラグループが誕生した。

それから毎月１回休館日に集まって、4日間のまつりのイベント企画を話し合い、期間中、折り紙・お手玉・劇あそび・わらべ歌などを行った。今までは自分が出るおはなし会のみに参加していたというボラが、一人で来る小学生や親子でブラッと来る人たちと楽しく交流する姿が毎日見られた。

まつりが終わった後、皆で打ち上げ（食事会）をし、この春のボラ懇談会では、楽しかった、もっと準備をして取り組もうという仲間に刺激されて、関心のなかった人もグループの連絡網に入ってきた。そして、子どもたちに良いおはなしの世界を届けよう、図書館に人を呼ぶために何かやりたいね、と、月1回集まっての勉強会が4月からスタートした。

これも、図書館はどうあるべきかを共に分かりあえる“さるびあ”の職員集団がいたから出来ることで、ボラ全員が感謝しており、職員を支えていこうね、とも話し合っている。

第8回のまつりは、各館のボラ組織が全館で誕生することを切に願っている。　　（会員）

話題の複合施設、志木市立いろは遊学館（公民館）・いろは遊学図書館・志木小学校 見学記 ― 2018.4.27 ―

町田市公共施設再編計画の方向の一つに施設の複合化が載っており、図書館がどうあったらいいかについて「すすめる会」でも昨年度から継続的に学習を続けています。今回、その一環として、埼玉県志木市の図書館を含む３つの施設の複合化事例を見学してきました（参加者４名）。

午前中に図書館の樺嶋館長案内による施設見学、午後は館長より学社融合のこの施設ができるまでの経緯、融合の効果と課題などについてスライドを使って説明を受けた後に質疑応答もさせていただきました。

施設等概要は、SRC 造、地下２階地上４階 13,346 ㎡（小学校 10,489 ㎡、公民館 1,704 ㎡、図書館 1,034 ㎡）。大半が新築で、南校舎は既存建物を耐震補強改築
（向かって左手が教室棟、右手が図書館・公民館等）

小学校・図書館・公民館の学社融合への取り組みを見て聞いて・・・　鈴木 真佐世

各階を案内していただく間に、棟や入り口は違うものの、明確な区分がなく、1，3，4階は小学校と公民館、2階は小学校と図書館というように、日常的に児童と地域の大人とが触れ合う機会があり、教室、施設も、曜日・時間によって児童と公民館利用者の重ね使いをするように造られていることがわかりました。

複合施設が作られることになった背景として、近接していた既存の3つの建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、複合化案が浮上。そこには地域の大人に育てられた経験を持つ元教育長の強い思いがあったとのこと。しかし、当時の公民館側は、面倒な管理を公民館側に押し付けられるのではないかという危惧があり、図書館側も図書館は単独がベストというセオリーがあり、共に複合化反対だったそうですが、特別教室を児童と市民が共同使用できる、市民の生涯学習活動をより積極的に推進する等、「地域を学校の中に持ってくる」ことに対する校長先生の理解と協力があったおかげで、まとまったそうです。

意図する教育効果は、公共図書館を学校図書館として活用する、公民館施設で地域の大人と一緒に学ぶ等“学校教育の社会化”の実践。

・図書館と学校との学社融合に向けての取り組みは以下の通り。

① 全学年にオリエンテーション
② 図書館の朝の打合せ時に学校図書相談員（学校司書ではないが司書資格有、1人常駐）が出席して学校との連絡を密に
③ 図書館の児童書コーナーの 40 人座れる「しきっこコーナー」で授業（児童がいないときは、一般の閲覧席として利用）
④ 出版社など主催の本の見計らいへ学校図書相談員と図書館職員が同行、選書
⑤ 図書委員によるカウンター業務等（30 分休みに 5，6年生の図書委員がカウンター業務や配架、月末館内整理で手伝い）

・公民館と小学校の学社融合は、陶芸など活動成果を小学校の児童に指導、登録団体による小学校の施設の利用、児童による公民館の施設利用。体育館の地域開放など。

図書館 28 年度のデータは、蔵書数 94,700 冊（うち児童書 34,236 冊）、視聴覚資料 3,009 点、貸出人数 50,657 人（うち児童 13,622 人）、貸出資料数（個人）149,410 点、うち児童書 61,346 冊（児童利用者数及び児童書の貸出割合は市の他館に比べて高い）

Q&A

・ボランティアについて：市民協働による事業が多数。

おはなし会などはボランティア団体が自主的に開催。活動のための学習会等集まりには公民館を無料で利用できる。子ども(6年生)のおはなしボランティアも活躍。

・図書館オリエンテーションを全学年の児童にしてきたが、教員にはしてこなかったので、今年度からとりあえず新任教員にする計画。

・図書館での大人との交流：授業中はない。児童は児童書コーナーの図書のみとなっているが高学年は許可を取り一般書の方に行ける。

・連携：毎月1回定例の、校長、教頭、館長、公民館館長の集まりの他、学校の図書主任と図書館職員との打ち合わせも持っている。

・学社融合部分の管理は、ほとんど公民館が行っているので、学校の負担は普通より軽い。

・館内での子どもたちのノイズ問題：開館当時は文句を言う大人もいたが、子どもたちも気をつけるようになり、言われなくなった。

・複合化することで子どもと本の出会いを増やしている。市外からの転入者はこの環境を選んでいるようで、志木市の他地域は人口が減っているが、この周りの人口は増えている。

・図書館の課題：1階に設置しなかったこと。

今回は、学校、公民館の関係者から話が聞けませんでした。教育の現場で実際のところどうなのかが今ひとつわかりませんでしたが、せっかく学社融合にしたのだからと、図書館では色々な取り組みをしている姿勢はよくわかりました。　（会員）

維持管理が大変そう　久保 礼子

時代の流れの新しいもの、例えば、普通教室のオープンシステム化、環境学習に資するという風力発電や屋上ビオトープ、蓄熱式空調設備など―をたくさん導入しているけれど、これらを活かして維持管理するのは大変そうと感じました。館長が最後の方で伝えてくださった言葉「教育は、成果が出るには時間がかかる。地道に積み重ねでやっていくしかない。細い糸。人と人のつながりを願っている日々です」に、こんな人が関わっているのなら“地域ぐるみの教育”という目標に近づいていけるかもしれない―と、胸をなでおろしました。ただ、町田にこのような目新しいものは不要と改めて感じました。　（会員）

学校が学社融合の推進役に　清水陽子

この施設が合築ではなくハードの上でもソフトの上でも複合の施設だというコンセプトで推進されたのが、学校教育側(教育長や校長)の主張であったということが驚きでした。

学校は地域との連携を重要視しながらも、学校側の壁を自ら取り払うことには消極的なのが一般的なように思います。学校部分との分離という発想ではなく、利用者の眼が抑止力という考え方は、学校から言い出したからこそ、地域の人も納得したのではないかと思いました。　（会員）

施設の複合化以前の課題が　大宇根 弘司

地域を学校の中にもってくる、特別教室を児童と市民が共同利用できる、市の図書館を学校図書館として活用する、公民館で地域の大人と児童が一緒に学ぶ等々だがその成果はどうか、客観的評価をぜひ知りたいところである。

一方建物としてはいろいろ気になるところがある。前面道路からは2つのブロックから成り立っているかに見える。その2つのブロックの間の高いところにガラスの屋根がかかっていてその下に各施設の入口があるらしく見えるのだが、どこにあるのか見当がつかない。2つのブロックの間に広い階段があるのでそれを登ったところにあるのか期待するが、そこには図書館の入口しかない。しかもエレベーターシャフトの斜め後ろにこじんまりとあって、通用口かと思わせる入口である。小学校のエントランスはその階段の裏の1階にあって、教えてもらわないと分からない。上・下履きの履き替えも随分と大雑把で、雨の日など靴の泥はうまく処理できるのか懸念が残る。

(小学校のエントランス)

(靴の履き替えｺｰﾅｰ)

ガラスのカーテンウォールが広汎に採用されているが、ペアガラスは一部にしか見当たらない。寒さ暑さは大丈夫か気になる。一方で体育館は冷暖房完備である。普通はそこまでしないので学校の体育館

としては行き届いた配慮である。図書館と学校の特別教室の間には仕切りがないために、冬の寒さしのぎにビニールシートが吊り下げられて景観上もなんとも寒々しい。外部の仕上げも築15年としては随分汚れが進んでいる。今のうちに手入れをしないと早晩みすぼらしくなってしまうに違いない。

図書館のインテリアは簡素である。主たる目的は資料提供であるからその趣旨を満たせばそれでいいのだと割り切る人もいるかもしれないが、何ともさみしい限りである。小学校、図書館、公民館にせよ、それぞれにそれらしいぬくもりのある空間が欲しいと思う。総じて、人へのやさしさ、環境負荷への配慮に欠けているように思えてならない。公共施設の複合化の先進事例とのことであるが、それ以前の課題があるのではないか。　　（市内在住建築家）

まちだ未来の会

「公共施設再編計画（素案）」へ「意見書」提出！

守谷　信二

先に、市の企画政策課により実施された「町田市公共施設再編計画（素案）」への意見募集に対して、まちだ未来の会は、A4 版 14 頁にわたる「意見書」（町田の図書館活動をすすめる会の HP、まちだ未来の会の頁参照）を提出した。

「意見書」の要点は次の3つ。まず1点目は、市の「再編計画」が掲げる公共施設の「集約・統合」に対して、身近な施設の配置は小学校区を単位とする「基本的な生活圏」を重視すべきだということ。2点目は、施設の建替えありきではなく、現有施設をハード・ソフト両面から徹底して「使いこなす」ことを第一義とすべきこと。そして3点目は、計画策定にあたっては、市の財政運用全体の見直しと市民合意が不可欠であるということ。

また「意見書」には、「市民の生活と文化」に直結する施設（学校、図書館、美術館・博物館等、集会施設、スポーツ施設、福祉施設）について、未来の会の対案も書き込んだ。その基本姿勢は、これらの施設を従来どおり、あるいはこれまで以上に充実・発展させるべきだというものである。「それでは施設再編にならない」という批判が聞こえてきそうだ。しかし、それは限られた資源をどのように配分するか、というきわめて政治的な判断の問題にすぎない。

昨年2月に公表された「町田市5ヵ年計画 17-21」（以下、「5 ヵ年計画」）によれば、この5年間の重点事業プラン 88 件のうち、リサイクル施設や下水処理施設を除いて、もっとも多額の税金が投入されるのは、鶴川や南町田駅周辺の整備、（仮称）国際工芸美術館の整備、「野津田公園スポーツの森」整備、「薬師池四季彩の杜」整備といった「賑わいのあるまちをつくる」事業である。「総量の圧縮」が大原則でありながら、一方である種の施設整備等には相当の予算が見込まれている。

私たちの「意見書」では、その冒頭で「誰もが住みたくなるまちづくり」の条件を、「やすらぎ」、「にぎわい」、「おちつき」、「あんしん」、「ときめき」の5つとし、「そのうち何を優先し、またどんなふうに組み合わせてまちづくりを進めていくかによって大きな違いが出て来ます。それを決めて行くには、まちをあげての合意形成が求められています。」と記されている。これに照らしてみると「5 ヵ年計画」は、あきらかに「にぎわい」を前面に押し出した計画であることがわかる。しかし、それらが本当に多くの市民の日常を豊かにするものなのかについては、必ずしも十分な説明がなされていない。

現在多くの自治体は、「都市間競争」という名の「にぎわい」争奪戦を繰り広げている。仮に町田市が「にぎわい」を一手に独占できたとして、周辺の自治体はどうなるのか。「競争の原理」から「共生の原理」へ、そろそろ転換が必要なのではないだろうか。私たちは、「あんしん」を前提としたうえで、「やすらぎ」や「おちつき」をもっと重視すべきではないかと考える。

こうしたもっとも基本的な点が、ほとんど議論されずに進められているのが、「5 ヶ年計画」や「公共施設再編計画」ではないだろうか。

（会員・まちだ未来の会世話人）

第 17 期図書館協議会　第６回定例会報告（報告者　清水 陽子）

2018 年 4 月 16 日（月）午後 1:00～3:15　中央図書館・中集会室　傍聴者1名

【報告事項】

≪館長報告≫（館長欠席のため、中嶋副館長より）

1. 人事異動について

1）常勤職員：退職（再任用3名、再任用へ2名）　転出4名、転入6名(内新人 1 名)：館内異動 11 名

2）嘱託職員：退職4名　新採4名　館内異動 11 名

・専任職員の司書資格所持率、退職者2名は所持、転入6名は不所持のため減少。是非資格取得を。

2. 平成 30 年第 1 回町田市議会定例会

＜文教社会常任委員会＞3/20

〇生涯学習部　行政報告

行政経営改革プランの取組検討に当たっての市民意識調査の結果について：市内在住 20～80 歳の市民 3,000 人対象、回収 1,106 部 HP で公開中。

図書館は他の生涯学習施設に比べ、利用した人の割合(47.3%)が高い。図書館に期待することとしては「図書の充実」が最も多い。図書館の見直しで最も重要と考えることは、「現在の図書館数のままでよい」が 23%、「これまで以上のサービスを」が 19.9%、とサービスの後退を容認しない回答が目立つ。

〇図書館ではこの結果を借りなくても利用している人がいることの裏付けと理解。現存図書館の廃止については抵抗感があるが、行政経営改革の中ではこのままというわけにはいかない（図書館見解）。

・請願 4 号　町田市立さるびあ図書館の存続を求める請願：請願署名 7,729 筆　5 ヵ年計画等を踏まえて、検討中と回答。本会議で採択(全会一致)。

意見：町田市は公民館が一つしかない。上位計画はあるだろうが、現存図書館を減らさず生涯学習の拠点としての活用を考えていくことが必要。

・第 7 号議案　平成 30 年度町田市一般会計予算

昨年度に比べ 4,070 万円増（トイレの改修工事など今年度だけのものが主）、資料費は昨年より 231.2 万円増（中央とさるびあのみ増）。

〇資料費における他市との比較では、昨年八王子市に抜かれ、多摩地域で最下位になっていることを訴えていく（図書館見解）。

3. 教育委員会

第 12 回　3/4　、第 1 回 4/13

＜報告事項＞（図書館まつりについては4. で）

・子ども向け読書手帳 4/24 から図書館で配布。

4. その他

（1）第7回まちだ図書館まつり

20 団体参加　56 プログラム　参加者 1,597 人　（昨年 2,213 人）〇参加者の減少は、開催日数が昨年より 1 日短かったのと堺図書館が休館中のため。

・大人への広がり、商店街とのコラボなど新しい流れがみられたことと、市民の参加の仕方や、乳幼児の家庭への PR 方法、ビブリオバトルの工夫など委員から意見が出た。

（2）町田市市民参加型事業改善プログラム

木曽山崎図書館単館：高齢者向けイベントや2階スペースの有効利用を検討し実施へ。

図書館全体：今行っている在り方の検討の延長線上で検討し 2019, 2020 年度に実施。地域で活動するボランティアの育成は、学校の読み聞かせボランティアの研修などを検討中。

意見：市民との協働と図書館の効率的・効果的な管理運営手法はリンクしないのではないか。指定管理ではボランティアの育成などはできないし、支払われたお金は市外に出てしまう。

意見：改善のための施策はその陰で何かが削られるという側面を持つので、バランスを考える必要。

（3）「鶴川地域図書館のこれから」ワークショップの開催について：5/13、25。本庁企画部門、住宅課と一緒に市民の意見を聞く。

〇結果は HP で報告し、あり方の検討の参考にする。さるびあ図書館は現在ワークショップの予定なし。

【協議事項】

1. 図書館評価について：　7 月開始

2. 次期生涯学習推進計画委員の選出推薦について：引き続き山口委員長を推薦。

★次回第 17期図書館協議会第7回定例会

5 月 28 日(月)午後 2:00～　中央図書館中集会室

傍聴自由です（休館日のため、事前に要連絡）。

ひろば

例会　4/24（火）　報告

・16:30～　印刷・発送作業等：久保、鈴木（真）、手嶋、野町、守谷
・18:35～20:10 中央図書館・中集会室
出席：石井、久保、鈴木（真）、手嶋、野町、宮、守谷・

議題

1. 会報について

№224：巻頭言 ワークショップ「鶴川地域図書館のこれから」報告、「公共施設再編計画への意見書について」、まちだ未来の会第13回学習会のお知らせ、「こんな本み～つけた」第9回⇒掲載スペースがないため次号送り、図書館まつりの反省など、志木市立いろは遊学図書館見学記、図書館協議会第6回定例会報告

2. 2017 年度の会計報告及び監査報告について

収入：248,103 円、支出：94,984 円、次年度繰越金：153,119 円

3. 今年度の世話人について

代表（手嶋）、副代表（久保）、書記（嘱託労）、会計（石井）、会計監査（守谷・鈴木真佐世）、集会室・印刷室の予約（渡辺）、印刷用紙調達（渡辺）、「知恵の樹」編集（手嶋・清水）、ホームページ管理（鈴木真佐世）、ML 管理（鈴木薫）、図友連 ML（手嶋・　・　）、図友連運営委員（山口）

4. 今年度の活動計画について

「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応

まちだ未来の会と連携して活動する。
「すすめる会」独自の取り組みも行う。

講演会

動向を見守りながら考える。

図書館見学会

4 月 27 日（金）「志木市立いろは遊学図書館」（埼玉県）（「知恵の樹」№224 参照）

まちだ未来の会　第 13 回学習会

いよいよ正念場！「公共施設再編計画」短期プログラムが動き出す！？
日時：5 月 27 日（日）午後 2 時～4 時 30 分
場所：町田市民フォーラム・第2学習室（4F）
連絡先：TEL 090(4703)8878（薗田）
カンパ：一口 300 円

5.「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・学習会
第 12 回学習会
市民が考えた「公共施設再編計画」発表会！
参加者：11 名 （「知恵の樹」№223 参照）
第 13 回学習会（この頁に別掲）

「すすめる会」の取り組み

・講演会
テーマ：一人一人が主権者として生きる―その骨格としての公共施設 ―（三多摩図書館研究所と共催）
参加者：42 名 （「知恵の樹」№223 参照）

6. 学校図書指導員について

その後の進捗状況：情報なし

7. 第7回まちだ図書館まつりの反省について

先月確認したことを再確認したい。その上で、4月 26 日（木）午後2時～4時　中央図書館ホールにて開催される反省会に出席する。 ⇒ 齋藤・久保・庄司・増山が出席。「知恵の樹」№224 参照

8. 図友連総会について

日時：5 月 28 日（月）午前 10 時～12 時
「すすめる会」は、出席できる人がいないため、委任状を出す。

9. 図友連要望書（文部科学大臣、総務大臣宛て）案について

改めてメーリングリストで配信する。案のとおり、賛同団体に名を連ねたい。 ⇒ 賛同団体となった。
5 月 29 日（火）各省面談を行い、要望書を提出する。

報告

1. 図書館協議会第6回定例会

「知恵の樹」№224 参照

2. 団体及び個人からの報告

嘱託労：「すすめる会」の 2018 年度担当が内定。
6 月 14 日（木）午後 6 時 30 分～　第 11 回定期大会

≪編集後記≫

町田市教育委員会が実施した「町田市生涯学習に関するアンケート調査」は、現在の図書館数のままでよいが 23.0%。厳しい財政状況の中でも、図書館の施設や事業は充実し、これまで以上のサービスを受けることができるように 19.9%、との結果が出ている。現状維持以上を望むのが民意といえよう。（T²）